

まえがき

令和2年3月末で前室長高橋秀典氏が定年退職を迎えられました。平成21年1月から防災研究所技術室長に就任され、その間、団塊世代技術職員の大量定年退職、それに替わる若手職員の採用や育成に尽力されました。世代交代に伴う技術力の継承など多くの課題がある中、室長として技術職員を導いてこられました。私は、高橋氏のこれまでの取り組みを踏襲し、更には防災研究所の基本理念にある「世界の安定や持続可能な発展に貢献する次世代の人材を育成することを目指す」に則して技術室の運営をしていきたいと考えています。限られた技術職員数であることから組織的な対応にはまだまだ弱いところがあります。組織としての体系的なサポートや技術力の発揮は難しい状況です。現状は、個々の技術職員の技術力、指導力に頼っており、技術室という組織をどのように強化していくかが今後の大きな課題であると考えています。

技術職員の世代交代が進む中、昨年度に新規採用技術職員1名を迎えることができました。また、今年度も新規採用を予定しています。将来の防災研究所の研究、教育を支えていく技術職員として成長していけるよう組織としてサポートしていく必要があり、今後とも関係機関の協力をお願いしたいと考えています。

さて、防災研究所技術室の令和元年度の活動成果をまとめた技術室報告第21号が完成しました。ご高覧いただき技術職員それぞれの支援実績や持っているスキルなどを知っていただくと幸いです。令和元年度は、長期支援依頼が12件、短期支援依頼が48件でした。新型コロナウイルスの影響が第3、第4四半期あたりから出始めましたが例年並みの技術支援を行うことができました。

令和という新しい時代を迎え、今後、新しい革新的な技術が出てくることでしょう。その最先端技術を有効に活用するためにも我々、技術職員は普段から研鑽、研修、資格取得などスキルアップを怠ってはならないと考えます。まずは、個々の能力の向上に努め、それが組織全体の強化につながるよう微力を尽くしていく所存です。

本「報告」の発刊にあたり、多大なご尽力とご支援をいただきました所長をはじめ教員、事務職員、そして関係者の方々には、ここに心より厚くお礼申し上げます。

令和2年(2020年) 7月

京都大学防災研究所 技術室

室長 吉川 昌宏